

B-8 茶実のサポニン(Thea-saponin)および浸出液の経時変化と洗淨能についての一実験

静岡女大家政

○庄司ハナ代 桑原 昂

目的 トリテルペノイド系サポニンは古くから天然洗淨剤として知られている。本研究では静岡県特産茶の実のサポニンおよび浸出液について、その経時変化と洗淨能をしらべ天然洗淨剤としての効用ならびに合成洗剤との併用性などを模索した。

方法 昭和49年静岡県菊川町産茶(*Thea sinensis* L.)実を粉碎、搾油してから、温浸エキスとし、水で希しゃくしてから塩酸とエーテルを加えて放置、沈澱を再結晶して得られた茶実サポニンと粉碎、搾油した茶実粉末を供試した。茶実サポニン液、茶実浸出液について、濃度(3区)別に放置日数と透過率、pH、起泡力、乳濁性、洗淨効率の変化および陰イオン(3種)、非イオン(2種)活性剤添加濃度と洗淨効率との関係をしらべた。

結果 1. 透過率は放置日数とともに浸出液に比しサポニン液の高濃度ほど低下する。2. pHはおおよそ5~6.5で放置日数、濃度別差異はほとんどない。3. 起泡力は高濃度ほど良好であるが、いずれも放置日数とともに少しずつ低下する。4. 乳濁性は浸出液に比しサポニン液の高濃度ほど大きい。また放置日数による変化はサポニン高濃度液をのぞいてほとんどない。5. 陰イオン活性剤添加濃度と洗淨効率は活性剤のみの場合に比しサポニン対比添加濃度50~100%で効果的であるが浸出液に対しては返ってマイナスである。6. 非イオン活性剤添加濃度と洗淨効率は活性剤のみの場合に比しいずれも効果がない。7. このような結果から、茶実サポニン液の洗淨能は単独でもかなり有効であるが、陰イオン活性剤をサポニン対比50~100%添加・併用により一層効果的であることが判った。